

# 10月15日 第5回宮本常一写真講座



## ◆第1部・講演「宮本常一写真の魅力」(仮題)

講師：大島洋

(写真家・九州産業大学芸術学部教授)

…写真集『幸運の町』(第1回写真の会賞)、写真論誌『写真装置』写真インタビュー誌『エッフェル塔』を創刊、写真論集『写真幻論』『アジェのパリ』、写真集『ハラルの幻』、編著『再録・写真論』『世界の写真家101』『伊奈信男 写真に帰れ』など多数。

## ◆第2部

「宮本常一の写真を語る—昭和37年九州の旅」  
パネラー 柳原一徳

(みずのわ出版代表・日本写真協会会員)

高木泰伸

(周防大島文化交流センター)

※『宮本常一写真図録 宮本常一と芳賀日出男が歩いた九州—昭和37年』を当日販売いたします。

◆日時 10月15日(土) 14:00～16:30

◆場所 周防大島文化交流センター研修室  
周防大島町平野

◆参加料 1,000円

◆定員 40名

◆主催 周防大島文化交流センター

◆申し込み・問い合わせ

周防大島文化交流センター

☎0820(78)2514

## 第5回宮本常一 写真講座講師に聞く

写真家

大島洋氏インタビュー

—この度は宮本常一写真講座の講師をお引き受けいただきましてありがとうございます。これまでの講師の中では僕が一番宮本さんから遠いような気もするんですが、良い機会なので勉強させていただこうと思っています。

—周防大島へいらっしやるのははじめてですか？

いいえ、昨年12月に写真家の福島菊次郎さんのインタビューをした時に来ました。福島さんは一時期大島に住み、片島で自給自足の生活を試みられていたので、一緒に片島が見えるところまで車で行きました。でも車で通るだけのようなものだったので、ぜひ時間を作って大島を見てみたいですね。そういう意味でも今回の写真講座、楽しみにしています。

—今回の写真講座では宮本常一を直接には知らない方に、客観的な立場から宮本写真を語っていただければと思っております。

宮本さんとの面識はほとんどないですが、私も宮本さんが訪ねた杵岐や五島列島など何度か撮影で歩いてますし、宮本さんの写真に写っている土地の記憶やイメージは私なりに持っています。しかし宮本さんはよく撮っていますね。すごいなあ…。

—昨年の写真講座では編集者の平嶋彰彦さんが「写真の記録性」ということを指摘されています。

記録性という意味では宮本さんの写真は日常の記録ですね。一般的に、写真家は余分なものを排除していく。でも宮本さんは「余分なもの」も含めて撮っている。こういう日常を撮っていることが貴重

なんだと思います。

以前、雑誌の特集企画で世界に遍在するアメリカ文化の写真を集めたことがありますが、世界中にあるマクドナルドとか、ガソリンスタンドとかの写真。ただ、アフリカの写真だけ揃わなかった。アフリカにもそういうものは普通にあるんです。でもプロの写真家の写真集にはそういうものが収録されていない。幸いにジャズアーティストの渡辺貞夫さんが撮った写真集にたくさんありました。渡辺さんはアフリカの日常を撮っているんですが、大抵の写真家の眼はアフリカというイメージ、サバンナの大自然とかになっちゃって、ガソリンスタンドとかは余計なものとして除け

ながら撮っているんですね。—写真家でない人が撮ったものにも魅力があるということですね。

そうですね。ある秀でた才能をもった人が撮った写真は面白いですよ。写真家とはまた違う視点を持っている。僕はポール・ボウルズというアメリカの作家が好きなんです。写真を見ることで文章の背景が見えてくるような気がします。宮本さんについても同じことが言えるんじゃないでしょうか。

それから、土地の人が撮った写真も記録という意味では貴重だと思います。写真家でさえもネガが処分されつつあり、日本写真家協会ではフィルムセンターを立ち上げようとしています。地元の方が撮った写真も何らかの形で保存できるようになれば良いと思うんですが、たいへんな作業になりますね。そういう点では宮本さんの写真はちゃんと整理されているのですね。これから改めて宮本さんの写真を見直して、写真講座ではみなさんにその魅力を語ることができればと思っています。